

放射線・線量委員会

当委員会の役割と中期 3 年間の活動方針は、以下である。

- (1) 医療機器及びその関連機器の放射線・線量に関する懸案事項に対し、機器による放射線・線量管理の在り方や、線量の低減などの線量に関する事項の検討を行い、各懸案事項に対する課題を明確化する。
- (2) 課題への対応方針の決定及び決定に沿った当工業会各関係部会・委員会、並びに国内外の関係団体（日本放射線技術学会、日本診療放射線技師会、医療被ばく研究情報ネットワーク、DITTA/ AdvaMED、IEC/DICOM）との連携を図り、取り組みについてのステークホルダー（行政、会員企業、使用者、一般等）への発信・対話を充実させていく。

これらの活動により、JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2030 の第 1 のビジョン「関連団体（産業界・学会）、行政、新たな医療産業分野とのより積極的な協働」に貢献する。

2026 年度は、従来からの活動を通じて得た情報やネットワークを効果的に活用して、以下を推進する。

1. 「データが変える医療」の実現に向けた環境整備

医療情報のひとつである放射線・線量管理、その応用は、画像医療システム産業の発展に不可欠である。

放射線・線量管理の分野は、線量管理そのもの以外にも、機器保守管理、医療情報との連携、等と幅広く、またこれらを推し進めるには経済的効果も必要である。

これらの充実・実現に向けて、当委員会は、各部会・委員会、行政機関、使用者団体、関連工業会などの国内外の関連団体と積極的な協調を行い推進する。

2. グローバル市場での競争力の強化

国際機関や各国・地域へのグローバルな提言活動を強化するために、国際・海外の関連団体に参加し、放射線・線量管理に関する対応案を提示する。

ICRP2023（The 7th International Symposium on the System of Radiological Protection）での JIRA ブース展示、第 1 回 JCRTM（JART/JSRT の初の合同学会）での JIRA ワークショップ、Japan DRLs2025 策定に向けた J-RIME DRL WG などを通じて、ICRP コアメンバー・量子科学技術研究開発機構（QST）・JSRT・JART・J-RIME などと良好な関係を構築したので、これら関係を維持して行く。

また、RSNA 時に開催される AdvaMED-XR 会議への参加を継続し、日本やアジアの取組み（Japan DRLs 2025、ADRL など）が、グローバルの視点からはどのような位置付けとなっているのかを確認し、将来の方向性に合致するアクションへつなげる。RSNA2025 の学会では、「ラテンアメリカ 6 か国での DRLs 調査(US DRLs、EU DRLs との比較)」の学術発表もあり、今後、このような情報を積極的に収集し、Japan DRLs 2030 策定へ向けた正しい知識を得る。

3. JIRA 産業の振興と関連領域との連携強化

放射線診断機器に対する線量最適化に対し、関連団体が推進する各種活動と協調して、診療報酬改訂、標準化規格・関連法制度整備及び医療現場への情報提供を推進する。

2026 年度は、4 月の JSRT 総会学術大会での JIRA ワークショップなども活用して、Japan DRLs 2025 の策定で線量管理システムが活用時に課題などを学会有識者と議論し、Japan DRLs2030 の調査(2029 年度と推定)までに、メーカーとして対応すべき点を洗い出して、その後の改善へとつなげる。

また、日本消化器がん検診学会「胃X線検診におけるDRL策定委員会」や医療放射線防護連絡協議会などへ参加し、国内外の放射線防護活動の情報収集を行う。

4. 線量管理・放射線被ばく防護関連情報の発信

グローバルな戦略的広報活動の推進を通じた情報発信のために、国内外関係団体からの情報収集及び委員会の検討結果などの広報活動を、広報委員会と協調して行う。

2025 年度には、読売新聞社から取材依頼があり、広報委員会・標準化部会とともに慎重に対応した。11 月 1 日の本紙 6 面に、Japan DRLs2025 内容を中心に解説記事として JIRA の名前も含めて大きく掲載され、国民がこの領域へ関心が高いことが分かった。継続して、正しい情報を慎重に発信して行く。